

ときめき人

Tokimeki bito



芸術から活力を 地元の愛を紡ぐ 彫刻家

津山町・横山11区

亀井 陽逸さん

かめい よういつ
1948年生まれ 血液型/O型

Profile

36年間、消防職員を務め、2017年には瑞宝単光章(消防功労)を受章。現在は、彫刻をはじめ音楽や美術など幅広く芸術活動続ける。



今までに製作した彫刻は、自宅敷地内の展示室(津山町横山字前田沢54-2)で公開しています。詳しくは☎0225(69)2402まで。

「イナイリュウで町おこしと聞き、地元のために協力したいと思った」。現在、道の駅津山「もくもくランド」に展示されているイナイリュウの想像模型は、イナイリュウ発見の場所とされている津山町に住む亀井さんほか板金工や鉄筋業を営む7人の共作として生み出された。

亀井さんは、40年以上にわたり彫刻を続け、地元津山の特産品である矢羽根模様の木材を使った作品では、河北美術展最高賞を受賞した経歴も持つ。亀井さんの作品は、愛こそが一番強いものであるとのこだわりから「家族愛」をテーマにしたものが多い。

地元津山が誇る彫刻家に、イナイリュウ想像模型製作に向けて白羽の矢が立った。「一人で彫刻を

作るときと違い、協力者全員の意見をまとめることが大変だったが、新しい発見も多く、やりがいがあった」と製作過程を振り返る。「芸術は自己表現の方法である一方で、人にパワーを与えるもの」と自分だけでなく、協力者や見てくれる人全員が納得できるパワーあふれる作品を目指して製作に奮起。企画から完成までの期間は1年を数えた。資料に基づきリアルさを残しながらも、パワーあふれる作品が地元住民たちによって完成した。

「矢羽根材の提供や想像模型の製作を任せてもらうなど、周りの人のおかげで今の私がある。今回の体験を今後の作品製作に生かしていきたい」。地元津山に愛されながら、今日も彫刻に「愛」を刻んでいる。

編集後記

▼今号はプラごみ問題を取材。「レジ袋有料化で困ることとは」という質問に多かった答えは「生ごみの処理」でした。私もその一人。レジ袋を使わない生ごみ処理の方法として、「古新聞ごみ袋」というものがあるのだから、プラごみ削減のため、さっそくチャレンジしてみます。(小野寺)

▼暑い日が続く中、汗にまみれながらの引越準備。懐かしい思い出の品や買った記憶のない物などさまざまな物が出てきました。日頃から定期的に整理しておけば、こんな苦労はせずに済むと分かっているから、後回しにしてしまう性格は、年齢を重ねてもなかなか治せません。(三浦)

▼取材を通し、障がいがある人が身近にいることが分かりました。助けが必要な人がそばにいるのに、何気なく見過ごしていたかもしれません。気付きや声掛けを自然にできるよう、思いやりの気持ちを持ち、自然と優しさが出る人になりたいと思います。(佐々木)



登米市公式ホームページ

(新型コロナウイルス感染症の影響に伴うイベント中止などの情報は公式ホームページでお知らせしています。) <https://www.city.tome.miyagi.jp/>



登米市メール配信サービス

(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。) <https://mail.cous.jp/tomecity/>